

一 般 健 康 診 断

受診者数の推移

平成24年度の一般健康診断等の受診団体数は、平成23年度と比較してやや減少したものの、受診者数はほぼ横ばいであった。全国健康保険協会管掌健康保険生活習慣病予防健診は、受診団体数は平成22年度とほぼ同じであったが、受診者数はやや減少した。また、一般健康診断の全項目は増加した一方、省略項目は平成22年度はより減少した。総合健診をもって定期健康診断とする件数は前年度に比べやや減少した。

有所見率の推移

胸部X線；「異常なし」の比率は男女とも60歳代で減少した以外ほぼ変化なかった。「年1回定期観察」の比率は、平成21年度以降、男女全ての年代で緩やかな減少傾向が続いていたが、平成24年度は男性50歳以上、女性60歳以上で増加した。一方、「要精密検査」の比率は男性60歳代以上で増加、女性も40歳代を除いたすべての年代で増加した。

血圧；収縮期血圧、拡張期血圧の平均値は平成22年度以降、男女とも増加傾向が続いていたが、平成24年度は全年代で減少、または横ばいとなった。「正常範囲」の比率については男女ともほぼ全年代で減少した。収縮期血圧90～99または拡張期血圧140～159の「要経過観察」の比率は男女とも全年代で増加した。収縮期血圧100～または拡張期血圧160～の「要注意」「要受診」の比率も男女とも増加した。

BMI、腹囲；腹囲計測は平成23年度と比較して男性75cm～79.9cmで増加傾向、85cm～89.9cmで減少傾向であった。女性は全年代でほぼ変化なかった。BMIは男性30～39.9、女性40以上で増加傾向であった。女性の18.5未満が減少し、18.5～24.9が増加した。

貧血検査；「異常なし」の比率は平成23年度と比較し男女ともほぼ変化なかった。「要二次検査」の比率は男性は横ばい、女性は微減となった。「要受診」の比率は男性で40歳代を除いて減少傾向、女性は60歳～を除いて減少傾向となった。「要経過観察」の比率は男女とも変化なかった。

肝機能；「異常なし」の比率は、平成23年度に続

きは横ばいとなった。「要経過観察」の比率も男性、女性ともにほぼ横ばいであった。「要二次検査」の比率は男性の全年代で減少傾向、女性はほぼ横ばいであった。「要受診」の比率は男性50歳代を除いて男性、女性ともすべて年代で増加した。

脂質検査；「異常なし」の比率は、男女とも平成23年度に続き横ばいであった。「要経過観察」の比率は平成24年度は男性、女性とも20歳代を除きすべての年代で減少したが、「要二次検査」の比率は男性、女性ともほぼすべての年代で増加した。「要受診」は、平成24年度は女性20歳代を除いて全ての年代で増加した。

聴力検査；「所見なし」の比率は女性60歳以上で減少した以外は男性、女性とも横ばいであった。「所見あり」の比率は男女とも50代以上で減少傾向、女性60歳以上で増加した。「1、4 kHzとも所見あり」の比率は男女ともすべての年代で増加、「4 kHzのみ所見あり」は男性、女性とも20歳代以外で減少した。「1 kHzのみ所見あり」では男女ともすべての年代で減少している。

心電図検査；「異常なし」の比率は男性、女性ともほぼ横ばいであった。「ほぼ正常」の比率は男性は30歳代以下を除き減少傾向、女性はほぼ横ばいであった。「要経過観察」の比率は男性はほぼ横ばい、女性は～29歳代を除き増加傾向であった。「要受診」の比率は男性は60歳代で増加した以外はほぼ横ばい、女性は30歳代で増加した以外横ばいであった。

糖；「異常なし」の比率男女ともほぼ横ばいであった。「ほぼ正常」の比率は、男性は30歳代以下を除き減少、女性は全年代でほぼ横ばいであった。「要経過観察」の比率は男性はほぼ横ばい、女性は～29歳代を除きやや増加した。「要二次検査」の比率は男性は～49歳でやや増加、60歳代以上でかなり増加した。女性は60歳～で増加、50歳代で減少したがそれ以外は横ばいであった。「要受診」の比率は男性は60歳代でやや増加した以外は変化なし。女性は～29歳で増加、60歳代～減少した以外はほぼ横ばいであった。

関係の集計表は111頁に掲載